

理想の追求こそ青年部の役割



82,1,26

No.952

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇五五(22)七二〇七

青年部第4回全支部活動者会議開かれる

一月二三日〜二四日両日、千葉市・稲毛海浜ユースホテルにおいて、各支部青年部代表五〇名が参加して、「青年部第4回全支部活動者会議」が開催された。

第一日目は、冒頭、長田副青年部長より、会議の基調が提起された。基調報告のなかでは、戦後史を画する大動乱の世界情勢、世界の階級闘争の流れの大きな転換を基礎にすえながら、現在進行している大政治反動・三五万人体制合理化攻撃などの現状が克明に報告された。そして、こうした状況のなかでの動券千葉の闘いの意味、三里塚闘争のもつ決定的な基軸性、3・6〜3・28への総決起が提起された。

「労働運動の原点とは―」

―高島喜久男氏が入門講座―

続いておこなわれた高島喜久男氏による「労働運動入門」：「労働運動の原点とは？」と題する講演は、(1) 労働とは何か？、(2) 労働力の商品化、(3) 労働組合とは何か？ (4) 労働組合の戦術、(5) 現在の労働者と労働組合」の五章にわけて話が進められた。「生命の発現であるはずの労働がプロレタリアートとブルジョアジーへの分裂を通して労働力が商品化されてしまっている。労働者が社会の真の主人公である。労働運動は、必然的に現在の資本主義体制との対決を含んで進められ、社会変革の力を労働者階級に与えるものとなる。」ことが提起された。「労働者の自然な声、本音を組織し、運動にすることができるといふのが労働組合運動の「入口」であり、どんな小さな要求も政治とからんでおり、政治闘争が高揚した年は春闘も非常な盛り上がりを見せ、要求金額も獲得金額も高くなっているように、政治闘争への決起が労働組合の「出口」になる」「組合員ひとりひとり全てが闘争をする。自分だけが運動をするのではなく、全体に責任をもつことが労働運動・労働組合運動の原点だ。」とむすんだ。

高島氏の講演は、日々の闘いの意味を労働運動の原点にたち返って確認し、その確信をうち固める意味で非常に意義深いものであった。夕食をはさんで夜は8ミリ映画「侵略―語られなかつた戦争」の上映がおこなわれた。上映された南京大虐殺や三光作戦などの日本帝国主義軍隊の侵略戦争の蛮行の数々に、上映後も、全員から感想や意見が出され、侵略戦争政策に屈服した恥多き日本労働者人民の歴史を再び繰り返してはならないことを全参加者が確認していった。

会議二日目は、歌唱指導の後、繁沢書記長より米帝レーガンによる戦争政策の下に、階級闘争の

大高揚が開始されているヨーロッパの状況、ポランド情勢、又、日本帝国主義の軍事大国化・改憲に向けた攻撃の全面的な激化をはじめとした急迫する情勢報告をうけ、その後、中野書記長から「国鉄労働運動の再生に向けて」と題して講演がおこなわれた。

「青年部運動の課題」

―中野書記長講演―

中野書記長は、冒頭、「労働組合の体質を改善し、労働組合というものの理想を追求していくのが青年部の役割」と、青年部運動の課題を明らかにした後、三五万人体制攻撃をはじめとした国鉄と国鉄労働運動をめぐる攻撃の様々な状況を暴露し、「敵の攻撃は極めて戦術的政治的だ。既成の労働運動の現状は基本的なかまが崩れてしまっている。反戦闘争を労働組合がきちんと組織して支配階級との力関係を変革するような大高揚をつくりあげなければならぬ。三里塚でこそ、こうした力関係の変革が可能であることを見極めたところに動券千葉の勝利の核心がある。この三月がひとつの勝負になる。」と結んだ。国鉄労働運動がいかなる方向に進むかによって日本労働運動全体が決定されるといっても過言ではない。とした中野書記長の講演は、動券千葉のもつ戦略的重要性、三年間の闘いの意義を明らかにし、し烈をきわめる三五万人体制攻撃のなかで、勝利の展望が鮮明に提起された。

二日間にわたって開催された全支部活動者会議は、成功裡のうちに全日程を終了し、三月総決起へむけた確信も固く散会した。